

夫は 125 日間に渡り入院し、抗がん剤治療を受け、予定通りに 6 回の投与後に退院し、自宅療養をしています。退院後も輸血を受けるために、2 回通院しましたが、1 月末の診察で、回復傾向であるという主治医の報告を受け、嬉しく思いながらのんびりと日々を過ごしました。

長期に渡る入院生活、骨髄抑制による貧血状態で体力を失い、身動きするのも「気合！」を入れなければならない、ヨチヨチと伝い歩きで家の中を動くという状態ですから、見ていて辛いものがあります。けれども「家はいいなあ〜」とくつろぎ、「寝ていると体力が回復する感じだ！」と長時間の昼寝を喜び、バスタブの湯に浸ってニッコリ、「頬に触ったら髭が生えてきたから、髭剃りを使ったよ」というびっくりの結果もあり、「日に日に回復しているのを実感する」と本人も申します。味覚障害が変化しつつも、食欲が増し、体重も少しずつ増え、退院後 3 週間が経ちました。



昨日の午後、夫は診察を受けるため、病院に行きました。最後の抗がん剤投与から 4 週目となり、血液の結果を見て、最終的な検査の予定を入れるためでした。結果は良く、2 週後に大腸の内視鏡検査、それから 10 日後の PET 検査で、3 月 12 日に全ての結果が出ることになり



ました。主治医は「寛解から、完治へ、を目指しています」と医療者としての自負と意欲をにじませて、一緒に喜んでくださいました。昔、「サクラサク」という合格電報がありましたが、それを待つ思いに似ています。あと 1 か月間、感染症予防などの薬も続けます。病院の前にある薬局で薬が出来るのを待っていた時、競泳の金メダリスト池江璃花子の輝く笑顔がテレビに映りましたがテロップに「白血病」という文字が見えました。衝撃を受けました。彼女自ら病名を公表し、治療に専念するということでした。若い人が重大な病気に罹るのは本当に辛いものがあります。夫が長く、厳しく、辛い治療を、苦しみや不安に耐えて受けてきただけに、彼女の苦しみは自分のことのようにです。今は、医療も進み、彼女は若い。回復を心からお祈りします。

さて、夫の血液検査の結果はいつも表で渡されましたので、数値を見ては一喜一憂したものでした。抗がん剤投与直後にも、すぐ血液検査をします。骨髄の状態を表すデータとして、主として白血球数、血色素量、血小板数があります。投与一週間ほどで骨髄抑制が進み、かなり数値が下がります。白血球数が1.0を下回ると、感染症に注意しなければなりません。白血球を増やす注射が何回かなされました。血小板数が5を下回ると出血しやすくなるといいます。濃厚血小板の輸血を 4 回受けました。血色素量が8を下回ると、輸血をする場合があり、赤血球輸血は9回行われました。貧血で失神し、床に 2 度倒れました。頭部への影響、傷口の出血、骨折などにも神経を使いました。

腫瘍マーカーである LDH の数値は、最初は非常に高く、炎症が起きていることを示していました。一回目の抗がん剤と放射線治療を受けた後には、急激に下がり、その後基準値内に収まって推移しました。バーキットリンパ腫は抗がん剤が効くと聞いていました。また、夫の体は年齢の割には回復力があったのでしょうか。今回の検査の数値は回復傾向を示しています。感謝せずにはられません。

時系列で、次のようなデータで、夫の状態が判断されます。

基準値		投与前	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	今回
		8/21	9/6	10/24	11/15	12/3	12/25	1/21	2/12
白血球数	8.6-3.3	9.4	9.3	0.1	16.3	8.9	2.1	8.3	5.8
血色素量	16.8-13.7	16.2	11.8	6.0	9.0	6.8	8.1	8.7	9.2
血小板数	34.8-15.8	21.9	17.0	1.4	12.0	19.1	2.2	8.8	13.6
L D H	222-124	602	1110	106	171	172	142	192	179